

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 救命救急センター運営費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111 (内 2588)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 153,479 千円 (前年度予算額：149,421 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	149,421	74,710	0	0	0	0	0	0	74,711
要求額	153,479	76,739	0	0	0	0	0	0	76,740
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・救命救急センターとは、原則として重症及び複数の診療科領域にわたる全ての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる施設であるが、常に高度な医療を提供するため、運営にあたっては多額の経費が必要である。
- ・救命救急センターを有する公的医療機関について、国庫補助事業を活用し救命救急センターの運営費に対して補助を行うことにより、適正な救急医療体制を確保する。

(2) 事業内容

- ・救命救急センターの運営に必要な給与費、材料費、経費等を対象に補助金を交付する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・国庫補助金 (医療提供体制推進事業費補助金) の活用
 ※補助率 2 / 3 (国 1 / 3、県 1 / 3)

(4) 類似事業の有無

- ・類似事業なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	153,479	救命救急センターの運営費に対する補助金
合計	153,479	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県保健医療計画（第7期）

第3部－第2章－第6節救急医療対策－7今後の施策

『救命救急センターの受け入れ体制強化のため、運営費及び設備整備費に対し助成します。』

(2) 国・他県の状況

- ・救命救急センターの運営費に対する補助については、（対象となる施設が無い県を除き）ほぼ全ての都道府県で実施されている。

(3) 後年度の財政負担

- ・救命救急センターの安定的な運営の為、引き続き、支援していく必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・三次救急医療体制の整備は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべきものであること、また、保健医療計画上も、救命救急センターの運営への支援を明記していることから、事業主体が県であることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

重症及び複数の診療科にわたる全ての重篤な救急患者を 24 時間体制で受け入れる救命救急センターの整備を進め、県民が等しく医療を受けられるような救急医療体制の整備・充実をめざす。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(前々年度末時点)	目標	現在値		
救命救急センターの充実度評価 A 割合の維持	(H)	100% (H29)	100% (H30)	83% (R1)	100% (R3)	83%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

救命救急センターを有する公的医療機関（2カ所）への補助
100,960 千円

<中濃厚生病院>入院患者数：5,868 人 外来患者数：11,273 人

<高山赤十字病院>入院患者数：5,061 人 外来患者数：13,479 人

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

救命救急センターは医療圏での救急医療の最後の砦として機能しており、これらの運営に対して補助を行うことで、各地域の救急医療体制を強化している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	救命救急センターの受入患者数は増加傾向にあり、運営費の補助が救急医療体制の確保につながるため必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	平成31年（令和元年）は救命救急センター運営費を補助した病院は充実度評価A判定以上を受けており、事業効果が表れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	不採算部門である救命救急センターの運営に対し助成をすることで適切な運営が確保されており効率的である。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>救命救急センターへ患者が集中する傾向にあり、重症患者への対応が困難となることが危惧されている。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>引き続き運営費に対する補助を行い、圏域内で完結可能な救急医療体制を維持する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	